

令和2年度第1回 岡山県スポーツ推進審議会の議事概要

【開催概要】

- 日 時 令和2年8月26日(水) 13:30～15:30
- 会 場 ピュアリティまきび 2F千鳥の間(岡山市北区下石井2-6-41)
- 出席者 <委員(五十音順)>
米谷会長、三村副会長、赤木委員、上田委員、大原委員、
小川委員、神田委員、泉水委員、松井委員、松本委員、
山田委員
(委員15人中11人の出席であり、本審議会は成立)
<事務局>
環境文化部：古南部長、安東文化スポーツ振興監、
安藤マラソン事務局参事、
宮野スポーツ振興課長
教 育 庁：山本保健体育課長
保健福祉部：中村障害福祉課長

1 開 会

2 あいさつ

○環境文化部長あいさつ

- ・新型コロナウイルス感染症の蔓延により、スポーツ界にも大きな影響が及び、オリンピック・パラリンピックの延期を始め、多くのスポーツイベントが延期や中止、規模縮小を余儀なくされている。
- ・このような中にあっても、感染防止対策を講じながら、高校総体の代替大会や観客数を制限してのトップクラブチームのゲーム開催など、新しい生活様式の下でスポーツをしたり、観たりする機会を取り戻そうとする努力も続いている。
- ・コロナに屈することなく、スポーツ活動に対する県民の関心と熱意を高めるとともに、スポーツの力で地域を元気づけられるよう、一層のスポーツ振興に取り組んでまいりたい。

3 議 事

※資料に沿ってまとめているため、必ずしも発言順ではない。

(1) 岡山県スポーツ推進計画の進捗状況（2019 年度実績）について

資料 1 P.1~36

■事務局説明（スポーツ振興課長）

- ・資料に沿って説明

■質疑

① 岡山県スポーツ推進計画（改訂版）2019 年度施策評価シート

評価基準について

（委員）

・2018 年度の評価を基に 2019 年度の評価をしているが、2018 年度の結果を踏まえて 2019 年度の目標を立てたのか。そうであるならば、2020 年度は何か数値目標を立てたのか。評価の判定は何をもってするのか。

（スポーツ振興課長）

・現在の計画は平成 25 年度から令和 4 年度の 10 年間の計画である。5 年間を経過した平成 30 年度に改訂し、その際にどれくらいの増加であれば、目標達成に繋がるのか、順調に伸びているといえるのか等を考慮し、目標値を立てている。

② I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の促進（資料 1 P11）

（委員）

・児童生徒に体を動かす楽しさや心地よさを実感させるとともに、体力を高める必要性等を認識させるには、どのような方策を考えているか。

（保健体育課長）

・本県には、体力運動能力が優れた児童に優秀賞(Aバッチ)を配付するという全国的にも珍しい取組がある。また、国の「Beyond2020 マイベストプログラム」事業に基づき、岡山県でも「体力アップ・マイベストチャレンジ」事業を立ち上げた。去年の自分の新体力テストの結果を超えることを目指し、達成感や成功体験を経験し、それを評価することで運動の喜びや可能性を実感してもらう取組である。ただ、コロナウイルス感染防止の関係で今年度のスポーツテストは可能な範囲での年度内実施としているため、どのような成果になるか予測できないが、課題を踏まえて取り組んでいる。

(委員)

・小学校体育連盟でも取組を見直すよう周知をしていきたい。各市町村教育委員会及び県保健体育課からも働きかけていただき、小学生の運動苦手意識や運動不足の割合が少しでも減少すれば、今後の中高等学校でのスポーツ活動に繋がる。学力と同様に体力も改善されるよう力を合わせていきたい。

(保健体育課長)

・コロナ禍の中で、子どもたちの運動不足による体力低下を懸念している。当初は、全国一斉の学校臨時休業によりステイホームという状況から、次第に運動の大切さや感染防止対策をした上で体を動かすことの重要性が注目され始めた。国からの通知を踏まえて、運動プログラムの動画をHPで紹介し、各市町村教育委員会等に周知している。運動習慣の定着を目的とした「運動習慣カード」を作成し、各学校へ取組を依頼している。引き続き、子どもたちの運動に対するやる気等を刺激していきたい。

(委員)

・子どもたちの体力低下が懸念されるが、感染予防対策をしながら体を動かせる取組ができている。その効果も今後期待される。

③ Ⅱ アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築 (資料1 P19)

(委員)

Q-1:運動部活動の科学的トレーニングの導入について具体的な実践方法をお聞きしたい。

Q-2:医・科学サポート体制をどういう方向で進めていくのか。

(保健体育課長)

A-1:国のガイドラインに基づき、競技の特性を踏まえ、各中央競技団体が指針を策定している。HPに掲載されている指針等を参考に、各学校の顧問が活動の内容を考え、効率・効果的に指導するよう工夫している。

(スポーツ振興課長)

A-2:県スポーツ協会競技力向上委員会においても協議されたが、女性アスリートの活躍を推進するためにも、女性トレーナーの活用を促したい。また、数年後に義務化される国体へのトレーナー帯同等、情報収集しつつ対応を検討したい。

4 フリーディスカッション 資料2

■事務局説明（スポーツ振興課長）

・昨年度から実施している。結論や方向性を絞るものではなく、多角的な意見をいただき、スポーツ推進計画を進めるにあたり参考にさせていただくものである。施策展開の工夫及び事業の立案等に反映させたい。

■フリーディスカッション

（委員）

・新型コロナウイルス感染症の影響下でのスポーツ活動のあり方について現状課題についてお気軽にご発言いただきたい。

（委員）

・岡山市の現状については、県の中学校総合体育大会、高等学校総合体育大会が中止、全国大会中国大会も中止となった。各支部各市町村レベルで、7～8月にかけて代替大会を開催しているところである。

・昨年まではガイドラインを守って部活動を実施することが課題であったが、今年度はそもそも、コロナの影響下でどういう形で部活動を実施するのかというところに課題がシフトしている。競技の特性に配慮したり、熱中症対策としての冷房使用と換気を両立させるなど、感染対策をどのようにするかが課題となっている。会場施設、分散型開催等を検討しているので、大会運営がしやすいよう県及び市にサポートいただきたい。

（委員）

・今回の新型コロナウイルス感染症の拡大では、2点のことを考えさせられた。

・まず、1点目は、こうした危機下での日本社会におけるスポーツの優先順位とは、ということ。朝日新聞のコラムで「スポーツは娯楽、みんながやっていると言うまで我慢するしかない」という言葉が紹介されていたが、実際、コロナ禍において、ジョギング程度はやっているという指針が出るまでずいぶん時間がかかり、休校期間中なのに公園で小学生が遊んでいるという苦情が入る、ということも起こった。私自身、高校生の全国大会が全て中止になったことに伴い、代替大会の開催可否を判断しなければならなかったが、ガイドラインで示されている感染リスクをゼロにできないことに加えて、この時期に大会開催することへの世論の厳しさを感じ、責任者として実施には抵抗があった。パラスポーツも含めて、日本ではスポーツは後回しなのか、真に必要なとされるもの、生活の一部でなければ何もできないのだろうか、ということを考えさせられた。

・2点目は、競技力偏重の大学進学のあるあり方についてである。高校総体が中止になって、私は真っ先に高校生に対して、3年間の集大成の成果発表の機会が失われたことへのお詫びと、これまでの経験を活かして人生を生き抜いてほしいという純粋な思いをメッセージとして送った。しかし、マスコミでは、大会

の中止は進路に大きく影響する一大事という扱われ方であり、高校スポーツが大学進学に紐づいたものとして扱われることに違和感を覚えた。以前から、スポーツ推薦で入学した学生は学業をおろそかにしているという声も聞かれ、競技力重視で進学先を決定するのではなく、学業とのバランスや大学に行く意味など、改めて競技力偏重の大学進学のあるあり方を見つめ直す必要があるのではないかと考えた。

(委員)

- ・パラスポーツの競技者は、基礎疾患を持っているということ、施設や学校等の利用者が多いということを考え、非常に苦渋の決断だったが、今年の県大会全てを中止した。

- ・障害者のスポーツ教室についても、どこまで消毒による感染予防を行えばよいのか、実施すべきか否か悩んだが、結局中止とした。指導者や参加者も理解してくれているが、本当にそれでいいのか代わるものはないか模索検討中である。

- ・全国大会についても、鹿児島に向けては選手の選考もできていなかったが、茨城大会（台風のため中止）に出場する予定であった選手の成績もよく、その方たちを選考したいと考えていたが中止になってしまい、選手のことを考えると心が痛い思いが強い。

- ・来年はぜひ県大会をやりたいと思っているが、介助ボランティアが必要なため、密になりやすい競技がどうしてもある。非常に心苦しいが、参加者を絞るために一定の基準を設けるかどうか、様々な大会を視察しながら検討しているところである。

- ・本来であれば、昨日25日はパラリンピックの開会式であった。来年開催できることを祈っているが、企業も厳しい状態であり、パラ選手も非常に資金面が苦しいと聞いている。

- ・県大会が順調に行われていれば第20回という記念大会の予定であった。パラスポーツの紹介等、岡山県障害者スポーツ協会のHPで記念動画を公開しており、選手の頑張っている姿をご覧いただきたい。

(委員)

- ・緊急事態宣言下における長期にわたる自粛生活や、新しい生活様式である在宅勤務を行うことにより、子どもたちの発育発達への影響や、親子の運動不足、高齢者の健康寿命への影響が危惧される。

- ・順天堂大学の野川先生が総合型地域スポーツクラブを対象に実施したweb調査を紹介させていただくと、248クラブのうち3分の1が今後の経営継続、再開の目途が立たないと回答している。また、営利、非営利関係なく、3M（人・金・物）が枯渇する恐れがあると言及されている。具体的問題としては、①国と自治体には緊急支援、経済的な支援をお願いしたいということ、②スポー

ツクラブに対して各種の救済措置がどの程度手厚く行われるかが不安ということ、③使用施設の再開、雇用の維持、見通しが立たないことへの不安や苛立ちがあること、の3点が上げられている。

・このように、生涯スポーツにおける現場において、地域スポーツ団体の動きが出遅れており課題が多いと感じている。

(委員)

・総合型地域スポーツクラブの現状については、個々の状況は具体的につかんでいないが、国の支援策として打ち出されたもののうち、総合型地域スポーツクラブが受けられる諸々の支援は、県内でもいくつかのクラブが活用していると聞いている。

・総合型地域スポーツクラブは自主運営、自主財源が原則であるため、地元の市町村から助成を受けるのは厳しい。公共施設の利用を優先的に受けることはあっても、ほとんどのクラブは行政からの支援を受けている状況にはないようだ。

・本来ならば、総合型地域スポーツクラブは、来年度から新しい登録認証制度が開始される予定であったが、一年先送りになり、令和4年度から開始となった。どのくらいのクラブが登録認証を受けるか不確定なところもあるが、この制度によって、総合型地域スポーツも新しい良い流れになっていくのではないかと期待する。

(委員)

・コロナウイルス感染症が拡大して以降、社会全体が止まっている状況と感じている。他の委員さんがおっしゃる、国や県市町村の支援についても、コロナがいつ収束するか見えない中、経済も回らず、全ての分野に、この止まった状況が続いていくわけで、誰しものが答えを出せない困難な状況だと強く感じている。

・このような状況下でスポーツの問題を考えると、プロスポーツにしても、観客の入場が制限される中で経営的にどうなっていくのか、という心配がある。先ほど大学進学の話が出たが、将来的にプロを目指す子どもたちがいたとしても、受け入れ側の経営状況により、新たな選手を受け入れられないということが出てくるのが懸念される。

・私自身、スイミングをしているが、施設がやっと再開したと思っても限られた状況下でしかできないということで運動不足にもなり、こうしたことが続けば、健康を維持できず、医療費の問題にも繋がる。単に、スポーツだけではなく、社会全体に大きく関わる問題であり、なかなか正解の見えない、非常に悩ましい状況である。

(委員)

・小学校のスポーツ活動の中に陸上や水泳の記録会という大きな行事があるが、水泳の記録会は、プールの中というよりは、更衣室の密が避けられないため、中止になった。学校現場においては、音楽や体育の時間数が減り、国算理社の勉強中心の流れになっていたところ、少しずつスポーツ活動もできるようになってきた状況ではあるが、秋の陸上記録会についても、自分のところから感染者を出してはいけないという心配感があり、多くの地域が今も中止を決めている。ただ、コロナの感染者が出ていない地域では、実施できるのではないかとまだ判断を迷っているところもある。

・このような状況の中で、行政へお願いしたいこととしては、医師会等と話していただいて、感染防止ガイドラインから一步踏み込んで、活動可能な方法を情報提供していただけたら、と考えている。現実的にはなかなか難しいと思うが、方向性を示せるものがあれば、せっかくの機会なのでお願いしたい。

(委員)

・スポーツ協会では、生涯スポーツと競技スポーツという二本の柱で事業を推進しているわけだが、生涯スポーツについては、地域における総合型スポーツクラブにしるスポーツ少年団にしる、現場の運営は疲労しているものの、どうにか再開していこうと知恵を絞りつつ進んでいる。

・一方の競技スポーツについては、日本スポーツ協会の取組として、競技ごとの練習、合宿、試合等のガイドラインに沿った指針を、今年に入って3回、各競技団体、市町村等に出したところである。

・コロナの収束が見えないなかで、セーリングやカヌーなど対人競技ではないもの、密になりにくいものなど、できる競技を模索しながら考えていくことが必要である。全てが駄目ではなく、やれる方法を考え、前向きな良いヒント、アドバイスを共有し、スポーツ関係団体等と協力体制を取りながら何か対策を講じていければ、前向きな一步を踏み出せるのではないかと感じている。

(委員)

・我が子が学校に通っていた頃を振り返ると、スポーツをしていると、上達を目指して、自分なりのトレーニングをしてしまい却って体を壊してしまうということが起こりがちである。今回のように、長期間、部活動が休みになり、自己流の期間が長くなると特に心配であるため、家庭でできる正しいトレーニングの方法を伝えることが求められている。先ほど、話題に上っていた、自粛生活における親子の運動不足解消にも役立つ。

・既に、プロスポーツの選手たちがオンラインで様々な活動をしてくださっているため、それを支えることこそが今の岡山県のスポーツを推進していこうとしている私たちのあるべき姿だと思う。

・いかに企業人が日常でスポーツを取り入れられるか、在宅勤務においても職場においてもスポーツの取り入れができる、そういった街になっていくよう努めていきたい。

(委員)

・私の所属している大学においても、スポーツは大きな影響を受けている。活動再開後の現在も大学生ともなるとエリアをまたいだ活動になるため、対外試合は禁止されている。

・先ほど、ご意見がでたスポーツ推薦以外にも、一般入試であっても、インターハイ何位、県大会何位、というのは書類で提出してもらっているが、今年度は文科省から配慮するよう通知があった。

・また、体育の教員の入試には実技試験もあるが、例えば柔道や剣道は行わないようにという指針も出ていて、そうした意味でも影響は大きい。

・小中学校では、休校が開けた後、怪我が増えているという話も聞く。学習に関しては夏休みを短縮するなどして、ある程度追いつけるかもしれないが、体力や競技力というのが追いつけるのか。例えば、入院を1週間すると、衰えた体力筋力を回復するのに2倍から3倍はかかると言われている。運動が行えなかった期間を取り戻し、いかに追いつくことができるのか、あるいは、あまり下げないようにするには何ができるのかということが重要ではないか。

・オリンピック・パラリンピックをはじめとして、多くの大会が中止になることによって選手のモチベーションは下がり、練習ができないなかで競技力も落ちている。スポーツ活動が通常通りにはできない中、国も、私たちも、ここまですらできると判断することは難しいと思うが、いつできるか分からない時期であるからこそやり続けられる方法を考えていけたらと思う。

(委員)

・当大学においても、授業のほとんどは感染防止のためリモートで実施している状況である。実技科目についても、感染防止策を徹底して限定して実施している。

・部活動においては、他者の触ったものを触らないとか、三密をどうするかとか、可能な感染防止策をすべて列挙し、許可が出れば再開、それを怠った場合は活動停止を検討する。感染防止を考えるとなかなか前に進められない現状があるが、限られた範囲で可能なところから進めていきたい。

・今回は、意見をまとめて結論を出すものではなく、それぞれの立場から現状を報告していただき、様々な課題を提示していただいた。

・ある程度収束に向かった時点で、次のステップに向かってまた考えていかなければならない。

5 報告事項 資料3

(1) 日本スポーツマスターズ 2021 について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

質疑なし

(2) 令和2年度オリンピック・パラリンピアン育成事業強化指定選手等について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

質疑なし

(3) 岡山県スポーツ特別顕賞について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

質疑なし

(4) トップクラブチームと連携した事業について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

質疑なし

(5) 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた大会の主なものについて

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

質疑なし

6 閉 会

○文化スポーツ振興監あいさつ

- ・本日は貴重な意見を頂戴し、感謝申し上げます。
- ・コロナ禍の厳しい状況下におけるスポーツの活動のあり方について、実施可能な種目で感染予防を徹底して何かできないかというご意見、新しい前向きな取組を検討したらどうかというご意見を頂戴した。今後の施策推進の参考にさせていただきます。
- ・来年には、2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される予定である。心に残り、将来に向けたレガシーを築いていけるよう取り組んでまいりたい。

- ・来年秋に開催される日本マスターズ 2021 についても心に残る素晴らしい大会になるよう着実に準備を進めていきたい。
- ・県としてもコロナ感染症の影響を乗り越えて、一層のスポーツ振興に取り組んでまいりたいので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いする。

以上